

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0870305000		
法人名	(有) メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 和楽樹		
所在地	土浦市板谷1丁目478-3 (電話) 029-833-2400		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年6月13日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】 (平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 6,200円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(90,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1	要介護2	1		
要介護3	5	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均 81.7 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿見第一クリニック、江島記念眼科歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自治会を通し、積極的に地域の方々とふれあう機会をもっている。
ホーム内は家庭に近い雰囲気があり、利用者は職員とともに自由な暮らしを楽しんでいる。
職員はホームの家庭的な環境づくりに重点を置くとともに、利用者が地域に溶け込んだ暮らしができるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎月のケアカンファレンスで利用者の現在の状況を把握するとともに、職員の気付きを反映した介護計画を作成し、日々の介護に反映させるよう改善している。 全職員が共通の理解を持ち、誘導等の声かけには目立たない言葉使いで支援している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で話し合った意見を管理者がまとめている。 自己評価と外部評価の課題をカンファレンス等で話し合い実践に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は区長、民生委員、市の担当職員、利用者及び家族代表で構成し、2ヶ月に1回運営課題等を活発に討議している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を玄関に設置しているが、活用されるまでには至っていない。 家族等の意見をより汲みあげるため、家族会の設立が望まれる。 重要事項説明書に苦情申し立ての外部窓口と電話番号を明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会するとともに行事に参加し、地域の人々と交流している。 園児たちの訪問を受けるなど幼稚園と交流し、遊戯や歌を一緒に楽しんでいる。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び全職員でつくった事業所独自の理念を日々のサービスの質の向上に活かすとともに、信頼関係で支える介護を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に理念を唱和し、利用者一人ひとりにふさわしいケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会するとともに行事に参加し、地域の人々と交流している。 園児たちの訪問を受けるなど幼稚園児と交流し、遊戯や歌を一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合った意見を管理者がまとめている。 自己評価と外部評価の課題をカンファレンス等で話し合い実践に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員、市の担当職員、利用者及び家族代表で構成し、2ヶ月に1回運営課題等を活発に討議している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会に加盟するとともに、市の担当部署と連携し研修の連絡を受けるなどの体制を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームたより「やわらぎ」を毎月発行するとともに、金銭報告書も家族の訪問時に渡している。 また、訪問が難しい家族には郵送している。 健康面などに変化があった場合は速やかに電話にて家族に連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、活用されるまでには至っていない。 重要事項説明書に苦情申し立ての外部窓口と電話番号を明記している。	○	家族等の意見をより汲みあげるため、家族会の設立が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんどないが、同一事業所内での職員異動の際には利用者やその家族に挨拶を行い、利用者には不安がないよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は救急救命研修に参加しているが、業務を優先に考えているため介護に関する研修に参加する機会が少ない。	○	運営者は職員が段階に応じた研修に参加しスキルアップを図る機会を増やすことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に加入し、他施設の職員と交流するとともに情報交換をしている。 話し合いを通してサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みを受けた後、利用予定者と家族に利用上の希望を聞いたりホーム見学をお願いしている。 ホームを案内するとともに説明を行い、納得したうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験や生活歴から利用者の特技を生活の中に反映できるよう支援している。 レクリエーション予定表を作成するとともに、レクリエーションは職員も一緒に活動するなど張りのある生活ができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのその日の生活を大切に、全職員で施設独自の「ハートケアプラン表」を作成し、事務室に掲示して利用者本位の介護に努めている。 利用者の依頼にすぐ対応することを基本にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを行い、職員の気付きや意見を取り入れるとともに、利用者や家族との話し合いの結果を反映させた介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に見直すほか、介護区分変更時や利用者の変化に応じて見直しているが、利用者の希望や家族と密に話し合うまでには至っていない。	○	利用者及び家族との話し合いを更に深めて介護計画を作成することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望する美容院や買い物のほか、利用者の知人が利用している施設訪問に車で送迎支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院の受診はホームが送迎している。利用前からのかかりつけ医は家族が送迎しているが、家族の都合がつかない場合は職員が受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケア対応指針を作成し、主治医の判断と利用者や家族の希望にそいホームでの生活が継続できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけないよう声かけに配慮している。 個人情報を含む記録は事務室に保管するとともに、不要な書類はシュレッダーで処分している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の生活を続けることを最善に考え、利用者の意向や希望にそった暮らしが継続できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のおしぼりの用意など、利用者のできることを手伝ってもらっている。 2ヶ月に1度の外食や家族を招いたバーベキュー大会など、食事を楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそって毎日好きな時間に入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用開始時の聞き取りで把握した生活歴や趣味、特技を活かせるよう、翌月のカレンダー作りや室内清掃、洗濯物たたみなどを利用者とともにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、希望にそった外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態を全職員で把握し、目配りをして鍵を掛けないケアを実践している。 事故のないよう出入り口にセンサーを取り付けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月と9月の年2回避難訓練を実施している。 地域の方々や運営推進会議のメンバーに非常時の協力をお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事を提供し、毎食摂取量をチェックしている。 健康上心配のある利用者の水分量をチェックし、かかりつけ医の指示を得て支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁にホームたよりや季節の話題などを掲示したり、食堂に利用者の手作りの大型カレンダーを貼っている。 冬は炬燵を設置するほか、ソファでゆったりと過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使っていた家具や使い慣れた物品を持ち込み、利用者好みの部屋にして居心地よくしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。